

## 観音山丘陵の哺乳類生息調査

特定非営利活動法人観音山丘陵調査 葛生淳一

昨年度の調査の結果から、哺乳類の生息密度が高いことが判明した高崎市街地南西の山名丘陵において、トレイルカメラを使用した哺乳類生息調査を行ったので報告する。

【調査期間】2016. 1. 1 ~ 2016. 12. 31

【調査地点】高崎市山名町字山の上（地図参照）



【調査方法】トレイルカメラを野生動物が移動時に通過すると思しき場所に通年設置。24時間体制で撮影。1週間から2か月おきに写真データを回収して撮影された画像から種類を同定、データを分析した。

【結果】4目7科11種の哺乳類を確認。

ニホンイノシシ *S.s.leucomystax* (偶蹄目イノシシ科)

ニホンジカ *C.n.centralis* (偶蹄目シカ科)

タヌキ *N.p.viverrinus* (食肉目イヌ科)

キツネ *V.v.japonica* (食肉目イヌ科)

ニホンアナグマ *M.m.anakuma* (食肉目イタチ科)

ホンドテン *M.m.memlampus* (食肉目イタチ科)

ニホンノウサギ *Lepus brachyurus* (ウサギ目ウサギ科)

アライグマ	<i>Procyon lotor</i>	(食肉目アライグマ科)
ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>	(食肉目ジャコウネコ科)
ノネコ	<i>Felis silvestris catus</i>	(食肉目ネコ科)
ノイヌ	<i>Canis lupus familiaris</i>	(食肉目イヌ科)

撮影時刻別の出現状況は以下の通り。

	~3	~6	~9	~12	~15	~18	~21	~24	計
イノシシ	26	10	0	0	0	2	15	36	89
ニホンジカ	0	1	0	1	0	0	1	0	3
タヌキ	54	18	2	4	4	9	46	58	195
キツネ	2	1	1	0	0	1	2	1	8
ニホンアナグマ	8	2	1	1	1	3	4	9	29
ホンドテン	0	2	0	0	0	0	0	0	2
ニホンイタチ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ニホンノウサギ	7	1	2	1	0	1	1	1	7
アライグマ	5	3	0	0	0	1	1	0	5
ハクビシン	16	8	0	0	0	0	0	1	30
ノネコ	15	8	3	4	7	4	14	19	74
ノイヌ	0	0	0	0	0	0	0	2	2

#### 【まとめ】

- 昨年調査結果と同様、11種の野生動物が生息することが判明した。
- 時間帯別の出現回数を分析すると、最も個体数が多いと思われるイノシシとタヌキが日没前にはほとんど活動していない。そのため、実際の個体数よりも目撃情報が少なくなる可能性が示唆される。
- ニホンジカの生息が本年度も確認された。♂、♀の別個体が撮影されており、定着繁殖の可能性が高い。
- 調査地点が水辺ではないため、ニホンイタチとアライグマは確認されにくいものと思われるが、その中においてアライグマは5回撮影されており、相当数の生息が疑われる。

キーワード：観音山丘陵 野生動物 哺乳類